

HP Operations Orchestration Software

ソフトウェアバージョン : 7.51

リリースノート

ドキュメントリリース : 2009 年 8 月

ソフトウェアリリース : 2009 年 8 月



ご注意

保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントに記載されたいかなる内容も、追加の保証を構成するものではありません。当社は、本ドキュメントに技術上の誤り、編集上の誤り、記載漏れがあった場合でも責任を負わないものとします。本ドキュメントに記載した情報は、予告なしに変更することがあります。

制限付き権利

本ドキュメントで取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェア資料、および商業用製品の技術データは、ベンダー標準の商業用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

本ドキュメントで言及されているすべての商標は、それぞれの所有者の財産です。

インターネット上でのドキュメントの検索または更新

HP ソフトウェアのドキュメントは継続的に拡充が図られています。HP OO のドキュメントセットやチュートリアルは、HP Software 製品マニュアルの Web サイトでいつでも入手または更新できます。この Web サイトにログインするには HP パスポートが必要です。

HP OO のドキュメントおよびチュートリアルを入手するには

1. HP Software 製品マニュアルの Web サイト (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) に移動します。
2. HP パスポートのユーザー名とパスワードを入力してログインします。
もしくは
HP パスポートを取得していない場合は、[New users - please register] をクリックし、HP パスポートを作成してからこのページに戻ってログインします。
HP パスポートの取得についてご不明な点がある場合は、HP OO の窓口でご確認ください。
3. [製品] リストボックスで下にスクロールし、[Operations Orchestration] を選択します。
4. [製品バージョン] リストで、目的のマニュアルのバージョンをクリックします。
5. [オペレーティングシステム] リストで、該当するオペレーティングシステムをクリックします。
6. [検索] ボタンをクリックします。
7. [検索結果] リストで、必要なファイルのリンクをクリックします。

ヘルプ、チュートリアルなどの場所

HP Operations Orchestration Software (HP OO) のドキュメントセットは次の内容で構成されています。

- Central のヘルプ
Central のヘルプには次の情報が記載されています。
 - フローの検索と実行
 - HP OO の機能の設定 (HP OO 管理者向け)
 - フローの実行結果から利用可能な情報の生成と表示Central のヘルプシステムは PDF ドキュメントとしても参照できます。このファイルは、HP OO のホームディレクトリ (¥Central¥docs サブディレクトリ内) にあります。
- Studio のヘルプ
Studio のヘルプは、プログラミングの初心者から上級者まで幅広く対応する、フロー作成のための手引きです。
Studio のヘルプシステムは PDF ドキュメントとしても参照できます。このファイルは、HP OO のホームディレクトリ (¥Studio¥docs サブディレクトリ内) にあります。
- Central 用および Studio 用の動画チュートリアル
HP OO のチュートリアルはどちらも 30 分未満で終わるもので、次の内容について基本的な説明をします。
 - Central : フローに基づく情報の検索、実行、表示
 - Studio : フローの編集これらのチュートリアルは、HP OO のホームディレクトリ以下にある Central と Studio のサブディレクトリ内にあります。
- Accelerator Packs フォルダーおよび ITIL フォルダー内にあるオペレーションやフローについてのセルフドキュメンテーション
セルフドキュメンテーションは、フローに含まれているオペレーションやステップの説明で見ることができます。

サポート

パッチ、トラブルシューティング情報、サポート契約管理、製品マニュアルなどのサポート情報については、次のサイトを参照してください：<http://www.hp.com/go/bsaessentialsnetwork>

これは、**BSA Essentials Network** の Web ページです。サインインするには:

1. [Login Now] をクリックします。
2. [HP Passport sign-in] ページで、HP パスポートのユーザー ID とパスワードを入力して、[Sign-in] をクリックします。
3. HP パスワードのアカウントをまだお持ちでない場合は、次のようにしてください。
 - a. [HP Passport sign-in] ページで、[New user registration] をクリックします。
 - b. [HP Passport new user registration] ページで、必要な情報を入力して [Continue] をクリックします。
 - c. 表示される確認ページで、情報を確認して、[Register] をクリックします。
 - d. [Terms of Service] ページで利用規約および法的な制限事項を読み、[Agree] ボタンを選択して [Submit] をクリックします。
4. [BSA Essentials Network] ページで、[Operations Orchestration Community] をクリックします。
[Operations Orchestration Community] ページには、お知らせ、ディスカッション、ダウンロード、ドキュメント、ヘルプ、およびサポートへのリンクがあります。

注：HP パスポートへの登録に関して問題がある場合は、OO の窓口にお問い合わせください。

目次

保証.....	ii
制限付き権利.....	ii
商標.....	ii
インターネット上でのドキュメントの検索または更新	iii
ヘルプ、チュートリアルなどの場所	iii
サポート.....	iv
最新情報.....	1
既知の問題	4
既知のバグの修正.....	14

最新情報

OO 7.51 は履歴を維持しながら 7.50 リポジトリをアップグレードする

これまでの OO のアップグレードでは、リポジトリをアップグレードするには、新しいバージョンの OO をインストールした後、以前のバージョンのリポジトリをインポートしました。OO のバージョン 7.50 および 7.50.02 では、リポジトリのエクスポートまたはインポートの処理に履歴が含まれなかったため、これによりリポジトリの履歴が失われました。

OO バージョン 7.51 では、以前のリポジトリがアップグレードされるようになりました。

- Windows システムでは、以前のリポジトリが OO のホームフォルダー構造内にあった場合は、アップグレードによりコピーされて、新しいインストール内の同じ相対位置に配置されます。以前のリポジトリが OO のホームフォルダー構造の外部にあった場合は (C:\temp\repo\ など)、コピーはされませんが、現在の場所でアップグレードされます。
- Linux システムの場合は、**config** ファイルで次の設定を使用して、以前のリポジトリをコピーするか、またはその場所でアップグレードするかを指定します。

```
COPY_PREVIOUS_REPO="<true|false>"
```

true を指定した場合は、以前の場所から次の方法で指定する新しい場所に、コンテンツリポジトリがコピーされます。

```
COPY_PREVIOUS_REPO_TO_FOLDER="\${iconclude.home}/Central/rcrepo"
```

false を指定した場合は、インストールしている Central インスタンスはリポジトリの以前の場所を使用します。リポジトリがアップグレードされるため、以前のインストールはリポジトリを使用できなくなります。

OO Central データベースの実行履歴削除スクリプト

Central データベースは、すべてのフロー実行の実行履歴を格納します。Central MSSQL、Oracle、または MySQL のデータベースによって格納されるデータを管理する OO Central 管理者およびデータベース管理者は、これらのデータベースに格納されているデータを定期的に評価して、古くて不要になった実行履歴を削除することをお勧めします。

OO 7.51 には、Central データベースの種類 (MSSQL、MySQL、Oracle) ごとに、一連のスクリプトとドキュメントが用意されています。これらは次の 3 つの .zip ファイルにパッケージ化されています。

- MSSQL_Run_History_Purge.zip
- Oracle_Run_History_Purge.zip
- MySQL_Run_History_Purge.zip

これらのファイルは『Readme for Purging OO Run Histories』ドキュメントと共に次のサイトからダウンロードできます：<http://www.hp.com/go/bsaessentialsnetwork>

Central の新しい [Current Runs] タブ

以前のバージョンの OO では [Administration] タブから行っていたフロー実行管理タスクを、[Current Runs] という名前の新しいタブで実行するようになりました。

<input type="checkbox"/>	Name	Description	History ID Run ID	Started ▼	Last Modified	State
<input type="checkbox"/>	Windows Health Check	This flow checks the overall health of a... ⓘ	2 2	2 hours 20 minutes ago	1 hour 48 minutes ago	STOP
<input type="checkbox"/>	Windows Health Check	This flow checks the overall health of a... ⓘ	3 3	1 hour 44 minutes ago	1 hour 13 minutes ago	STOP
<input type="checkbox"/>	Windows Health Check	This flow checks the overall health of a... ⓘ	5 5	4 minutes 16 seconds ago	3 minutes 22 seconds ago	STOP

Delete Selected

図 1 – [Run Administration] タブ

このタブでは次のことが可能です。

- 現在の実行を表示する
- 実行を削除する
- 実行の再割り当てを行う
- 実行を再開する
- 実行の履歴を調べる

[Administration] タブの新しい [Account] サブタブ

[Administration] タブに新しく [Account] サブタブが設けられました。

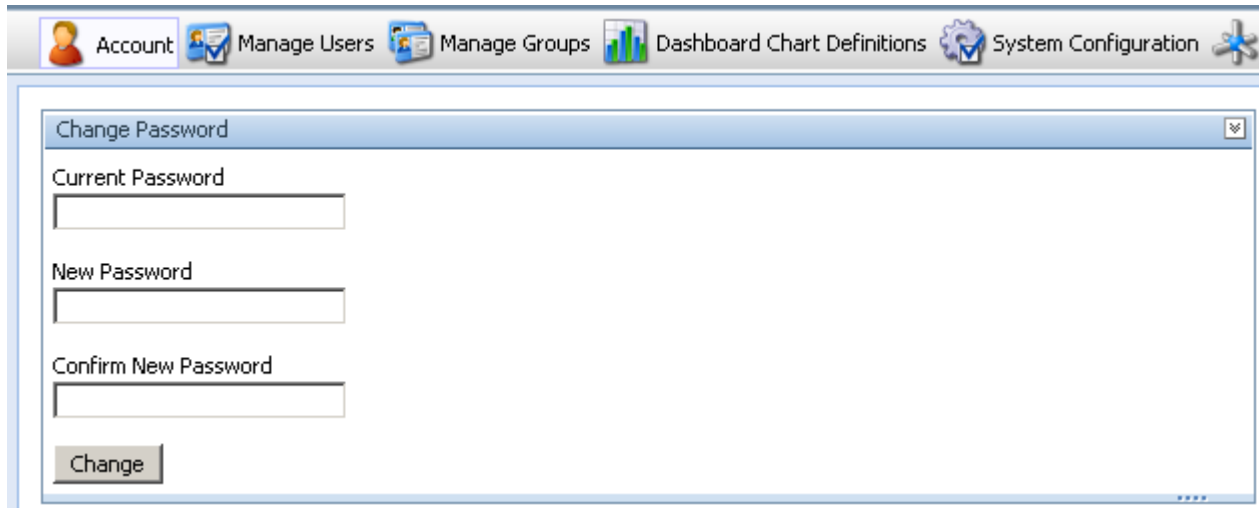


図 2 – [Account] サブタブ

このタブでは次のことが可能です。

- OO Central のパスワードを変更する。
- グループメンバーシップを表示する。

新しい [HP Operations Manager Severity] 選択リスト

重大度を入力する Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Manager/ フォルダー内のオペレーションには、**Critical**、**Major**、**Minor**、**Warning**、**Normal** のいずれかの値を指定する必要があります。これらの値が、[HP Operations Manager Severity] という名前の新しい選択リストに配置されました。この選択リストは Studio の Library/Configuration/Selection Lists/ フォルダーにあります。

対象となる HP Operations Manager の操作は次のとおりです。

- Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Manager/Create Incident
- Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Manager/Update Incident
- Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Manager/Enumerate Incidents

これらのオペレーションに対する **重大度** の入力値は、[HP Operations Manager] 選択リストの値を選択できます。

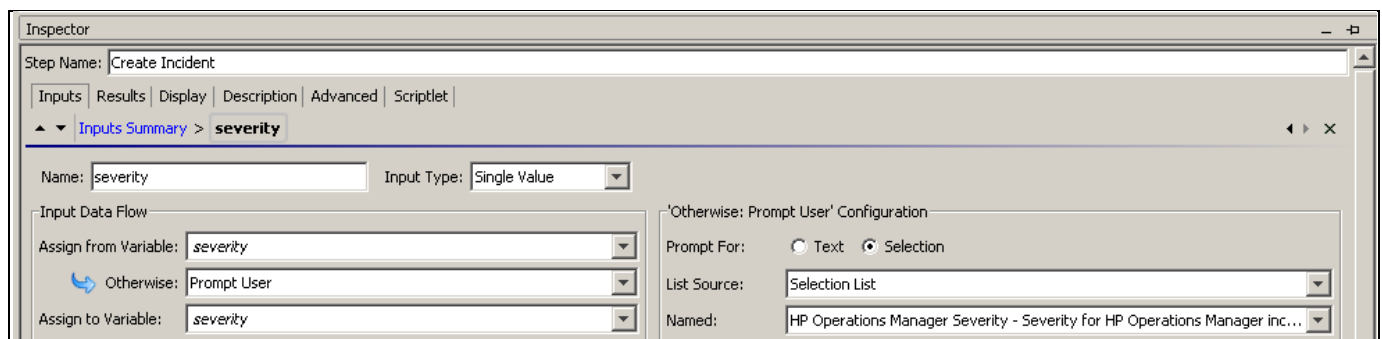


図 3 – [Create Incident] オペレーションの重大度の入力

新しいドキュメント

以下の新しいドキュメントは、Central データベース削除機能をサポートします（詳細については「OO Central データベースの実行履歴削除スクリプト」を参照）。

- *Purging OO Run Histories from MSSQL Databases*
- *Purging OO Run Histories from MySQL Databases*
- *Purging OO Run Histories from Oracle Databases*
- *Readme for Purging OO Run Histories*

新規サポート

- Microsoft Windows 2008 Server（Standard、Enterprise、または Datacenter Edition）SP 2、32 ビット版または 64 ビット版
- Microsoft SQL Server 2008

既知の問題

インストールまたはアップグレードの問題

バグ 95152 : リポジトリのアップグレードが終了するまで、Central のアップグレードが完了しない

リポジトリのアップグレードにはかなりの時間がかかり、リポジトリ以外に関する Central のアップグレードが完了した後も続けられます。リポジトリのアップグレードが完了するまでは、Central を起動できません。実行中の Central_wrapper.log を表示するツールを使用して、リポジトリのアップグレードの進捗を Central_wrapper.log ファイルで監視できます。

または、Central を起動してみることで、リポジトリのアップグレードが完了しているかどうかを確認できます。リポジトリのアップグレードが完了するまでは、Central を起動できません。

バグ 96625 : 追加認証プロバイダーを使用していた以前のバージョンの OO から OO 7.51 にアップグレードした後、Central が起動しない

以前のバージョンの OO が追加認証プロバイダー（Microsoft AD、LDAP、または Kerberos）を使用していた場合、それを OO 7.51 にアップグレードすると、Central が起動せず、HTTP 503 エラーを返すようになります。これは、追加認証プロバイダーで使用されているプロパティが、OO 7.51 に移行されないためです。

この問題を回避するには：

1. %OO_home%/Central/conf/ フォルダの Central.properties をテキストエディターで開きます。
2. 追加認証プロバイダーのプロパティを探します。ファイルの最後の方にあり、コメント化されているはずですが。
3. これらのプロパティのコメントを解除してファイルを保存します。
4. Central を再起動します。

Central、Studio、および HP OO ライブラリー Accelerator Packs、Integrations、Operations、Utility Operations

バグ 84927 : Scheduler で英語以外の番号の入力が受け付けられない

OO 7.51 Scheduler では、英語以外の番号は入力として受け入れられません。この問題を回避するには、Scheduler のコンボボックスから番号を選択するか、ブラウザーの入力を英語に切り替えます。これは、他の Scheduler 入力には適用されません。

バグ 88270 : 無効な資格情報が入力として使用された場合に HP-UX Information Gathering フローが Success レスポンスに到達する

次のフローは、無効な資格情報（ユーザー名とパスワード）が入力として使用された場合、**Success** レスポンスで完了します。

Library/Accelerator Packs/Operating Systems/HP-UX/Information Gathering/ フォルダーで：

- CPU Metrics
- Display File Systems and How Full
- Display Last Boot Time
- Display OS Info
- Network Metrics
- Recent Reboot

Library/Accelerator Packs/Operating Systems/HP-UX/Utility/ フォルダーで：

- Check For Vital Processes
- Check Load Average
- Check Process by PID
- Get PID from Process Name

注：ssh が **protocol** 入力用に選択された場合、フロー実行は予想どおりに **Failure** レスポンスに到達します。

HP-UX では、Telnet で認証する際に、パスワードの 8 文字以降が切り捨てられます。つまり、ユーザーのパスワードが「password5」である場合、「password」、「passwordpassword」、「passwordbad」などのパスワードはすべて承認されます。これは HP-UX の動作によるものです。

バグ 89533 : Windows Remote Command Execution オペレーションがコマンド入力での call コマンドの参照なしでバッチファイルを実行できない

Library/Operations/Operating Systems/Windows Management/ フォルダーにある **Remote Command Execution** オペレーションは、**Command** 入力にバッチファイル名（「*batchfilename.bat*」）を入力すると失敗します。**Remote Command Execution** オペレーションを使用してバッチファイルを実行するには、**Command** 入力に「*call batchfilename.bat*」を入力します。

バグ 89695 : Storage Automation Accelerator Pack の問題

Storage Automation Accelerator Pack に関する既知の制限事項は、次のとおりです。

1. Windows プラットフォームでは、エンドツーエンドのホストストレージプロビジョニングは失敗します。影響を受けるフローは、Library/Accelerator Packs/ Storage Automation/Provisioning/Windows/ フォルダーにある **Create Logical Volume on Windows Host** です。
この問題を解決するには：
 - a. **Create Logical Volume on Windows Host** フローをチェックアウトします。
 - b. **Disk Partition Run Script** ステップを開きます。
 - c. [Inputs] タブで、command 入力を開きます。
 - d. [Constant Value] テキストボックスで、ボックス内のテキストを次のテキストに置き換えます。

```
for /F "skip=20 tokens=4" %%I IN ('%SystemRoot%\system32\diskpart /s script.scr') DO ( echo Y|format %%I:/FS:NTFS /Q )
```
 - e. フローを保存してチェックインします。
2. Windows でのエンドツーエンドの Oracle ストレージプロビジョニングは常に、アタッチされたストレージアレイからストレージのプロビジョニングを行います。影響を受けるフローは、Library/Accelerator Packs/Storage Automation/Provisioning/Windows/ フォルダーにある **Create Extended Logical Drive on Host** です。
このフローは、ホストですでに使用可能である未使用のディスクストレージを無視します。
この問題を解決するには：
 - a. **Create Extended Logical Drive on Host** フローをチェックアウトします。
 - b. **Create Script to Get Disks with Free Partition** ステップを開きます。
 - c. [Inputs] タブで、command 入力を開きます。
 - d. [Constant Value] テキストボックスで、ボックス内のテキストを次のテキストに置き換えます。

```
echo @echo off>getfd.bat&&echo @set dd=>>getfd.bat&&echo set inuse=no>>getfd.bat&&echo for /F "skip=7 tokens=2,4,5,6,7" %%%I IN ('diskpart /s script.scr') DO (IF %%%J EQU %%%L call :setdrives %%%I %%%J %%%K %%%L %%%M)>>getfd.bat&&echo echo freedisks=%dd%>>getfd.bat&&echo @set errorlevel=0 1>>getfd.bat&&echo GOTO end:>>getfd.bat&&echo :setdrives>>getfd.bat&&echo set inuse=no>>getfd.bat&&echo for /F "skip=1 tokens=1,2,4,6" %%%I IN ('wmic diskdrive list SCSI') DO (IF %%%J EQU %%1 call :setdrives1 %%%I %%%J %%%K %%%L)>>getfd.bat&&echo IF %%inuse%==no set dd=%dd%/%1,%2,%3,%4,%5>>getfd.bat&&echo :setdrives1>>getfd.bat&&echo for /F "skip=1 tokens=1,2,4,6" %%%I IN ('wmic diskdrive list SCSI') DO (IF %%%K EQU %%3 IF %%%L EQU %%4 call :setdrives2 %%%J)>>getfd.bat&&echo :setdrives2>>getfd.bat&&echo for /F "skip=8 tokens=2,4,5,6,7" %%%I IN ('diskpart /s script.scr') DO (IF %%%I EQU %%1 IF %%%L EQU 0 set inuse=yes)>>getfd.bat&&echo :end>>getfd.bat&&echo exit 0>>getfd.bat
```
 - e. **Run Script to Get Disk** ステップを開きます。
 - f. [Inputs] タブで、command 入力を開きます。
 - g. [Constant Value] テキストボックスで、ボックス内のテキストを次のテキストに置き換えます。

```
call getfd.bat
```
 - h. フローを保存してチェックインします。

3. Library/Accelerator Packs/Storage Automation/Utility/ フォルダにある **Refresh SE On UCMDB** フローは、次の例外が発生して失敗します。

```
FailureMessage=AxisFault
faultCode:
{http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/}Server.userException
faultSubcode:
faultString:java.rmi.RemoteException:execute failed for
storageautomation.jar:com/hp/storage/SE/automation/general/IActionRefreshSEOnUcmdb
.class; nested exception is:
    java.lang.RuntimeException:error instantiating action
class:storageautomation.jar/com/hp/storage/SE/automation/general/IActionRefreshSEOnUcmdb.class, reason:java.lang.ExceptionInInitializerError
...
```

この問題を解決するには:

- a. Studio を終了します。
- b. RAS サービスを停止します。
- c. %OO_Home%/RAS/RAS-7.50/RAS/Java/Default/repository/lib/storageautomation/ フォルダにある次のファイルを削除します
jbossall-client.jar
commons-logging.jar
- d. 次に示す jboss バージョン 4.0.1 SP1 の jboss クライアント jar ファイルを %OO_Home%/RAS/RAS-7.50/RAS/Java/Default/repository/lib/storageautomation/ フォルダにコピーします
jboss-client.jar
jboss-common-client.jar
jbossjmx-ant.jar
これらの jar は、 <http://www.jboss.org> からダウンロードできます。
- e. RAS サービスを起動します。
注: 上記の回避策を実行した場合、コピーしたファイルは、アンインストール後に手動で削除する必要があります。

4. Library/Accelerator Packs/Storage Automation/Provisioning/Storage Provisioning/ フォルダにある **Provision Storage to Host – Create Change Ticket** フローと **Provision Storage to Host – Update and Approve Change Ticket and Execute** フローは、次の例外が発生して失敗します。

```
status=ERROR:Failed to parse provisioning XML
String;exception=com.hp.seoo.common.SEOOException:Failed to parse provisioning XML
String
    at
com.hp.seoo.general.XMLParsing.parseProvisioningXMLString(XMLParsing.java:214)
    at
com.hp.storage.SE.automation.general.IActionParseProvisioningDetailsFromXML.executeOps(IActionParseProvisioningDetailsFromXML.java:35)
    at
com.hp.storage.SE.automation.general.IActionParseProvisioningDetailsFromXML.executeOps(IActionParseProvisioningDetailsFromXML.java:67)
```

```
at
com.iconclude.webservices.ras.classLoadedIaction.execute(JavaExtensionService.java
:554)
at
com.iconclude.webservices.ras.JavaExtensionService.executeFromThisDelegator(JavaEx
tensionService.java:233)
...
```

こうした問題を修正するには、特定のステップ結果のフィルターを追加する必要があります。

Provision Storage to Host – Create Change Ticket フローの場合、次の手順に従います。

- a. **Provision Storage to Host – Create Change Ticket** フローをチェックアウトします。
- b. **Convert Provisioning Details to XML** ステップを開きます。
- c. [Results] タブをクリックします。
- d. **provisioningXMLString** 結果を開きます。
- e. フィルターのプロパティウィンドウで、**Replace** フィルターと次の各入力を追加します。
[Find]: <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
[Replace]: All
[With]: <?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
- f. フローを保存してチェックインします。

Provision Storage to Host – Update and Approve Change Ticket and Execute フローの場合：

- a. **Provision Storage to Host – Update** と **Approve Change Ticket and Execute** フローをチェックアウトします。
 - b. **ModifyProvisioningXML** ステップを開きます。
 - c. [Results] タブをクリックします。
 - d. **provisioningXML** 結果を開きます。
 - e. フィルターのプロパティウィンドウで、**Replace** フィルターと次の各入力を追加します。
[Find]: <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
[Replace]: All
[With]: <?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
 - f. フローを保存してチェックインします。
5. Windows および HPUX ホストでのエンドツーエンドのプロビジョニング作業フローは現在、Secure Path ソフトウェアを使用する場合にのみ機能します。
6. Library/Accelerator Packs/Storage Automation/Provisioning/VMWare/ フォルダーにある **End-to-End VMware Storage Provisioning** フローの REST 実行では、入力を求めるプロンプトが表示されます。
この問題を解決するには、次の手順に従います。
- a. **End-to-End VMware Storage Provisioning** フローをチェックアウトします。
 - b. [Inputs] タブで、**vmName** というフロー入力と次の値を追加します。
[Input Type]: Single Value
[Otherwise]: Use Constant
[Constant value]: <空白にしておく>
 - c. フローを保存してチェックインします。

バグ 89716 : Telenet プロトコルを使用する場合、Red Hat Start Service フローが Success レスポンスに到達するが内部で失敗する

Telnet プロトコルを使用して次のフローを実行すると、開始しようとするサービスがすでに実行されている場合、Success レスポンスに到達しますが内部で失敗します。

- Library/Accelerator Packs/Operating Systems/Red Hat/State change/Run Service with Notification
- Library/Accelerator Packs/Operating Systems/Red Hat/State change/Run Service with Notification

サービスがすでに実行されているため、本来フローは **Run Service** ステップで **Failure** レスポンスにつながるはずですが、ここではそうならず、フローは **Run Service** ステップで **Success** レスポンスにつながりますが、内部で失敗して次のエラーレポートが表示されます。

```
{returnCode=0;stdErr=;returnResult=Starting crond:cannot start crond:crond is already running.[60G[ [0;31mFAILED [0;39m]
;Result=Starting crond:cannot start crond:crond is already running.[60G[ [0;31mFAILED [0;39m]
;sessionId=iconclude2432099503651565201;stdOut=Starting crond:cannot start crond:crond is already running.[60G[ [0;31mFAILED [0;39m];}
```

バグ 90436 : Remote Command オペレーションの NAS Connect API サポートでは無効な入力であっても実行が成功する

Library/Operations/Remote Command Execution/ フォルダーにある **Remote Command** オペレーションは、有効な入力では正常に実行しますが、無効な入力でも正常に実行します。

バグ 91691 : SSH Shell オペレーションが日本語文字を正しく返さない

Library/Operations/Remote Command Execution/SSH/ フォルダーにある **SSH Shell** コマンドを日本語のコンピューターで実行すると、結果に正しくない文字が含まれます。

バグ 92138 : デフォルトのメールクライアントを設定していない場合、フローの間にハンドオフを実行すると、ハンドオフの電子メールが送信されない

フローを開始してからハンドオフを実行した場合（[Run Status] エリアで [Options] をクリックした後、[Hand off] をクリックして）、デフォルトのメールクライアントをインストールして設定していないと、次のようなメッセージを受け取ります。

```
Could not perform this operation because the default mail client is not properly installed
```

バグ 92647 : HP Service Manager Update Problem オペレーションで作成されたフローが有効な入力で失敗する

Library/Integrations/Hewlett-Packard/Service Manager/Problem Management/ フォルダーにある **Update Problem** オペレーションを使用するフローを作成した場合、入力が有効であってもフローは失敗します。

バグ 92722 : UCMDB Get Topology Map by Query Name with Parameter が無効な入力であっても正常に実行する

Library/Integrations/Hewlett-Packard/Universal CMDB/ フォルダーにある UCMDB オペレーション **Get Topology Map by Query Name with Parameter** のフィルタリング機能は、UCMDB 7.0 および UCMDB 8.0 では正しく動作しません。**parameterName** 入力でユーザーによって設定されたフィルターおよびプロパティ入力によって設定されたクエリパラメーターに基づいて、クエリ結果をフィルタリングできません。オペレーションは、**queryName** 入力にのみ基づく結果を返します。

バグ 92912 : Run Status メッセージがフロー実行後であっても NEW と表示される

Central からフローを実行して完了しても、**Run Status** には **NEW** と表示されます。正しい表示は **Finished** です。

Run Status:NEW
Current Step: Get Stopped Services



図 4 - 実行が終了した後で NEW と表示される Run Status メッセージ

バグ 92914 : Studio で特殊文字を検索すると Parse Exception メッセージが表示される

Studio の [Search] ペインのテキストボックスに "\$%\$%^&^" のような一連の特殊文字を入力した場合、次に示すような Parse Exception メッセージを受け取ります。

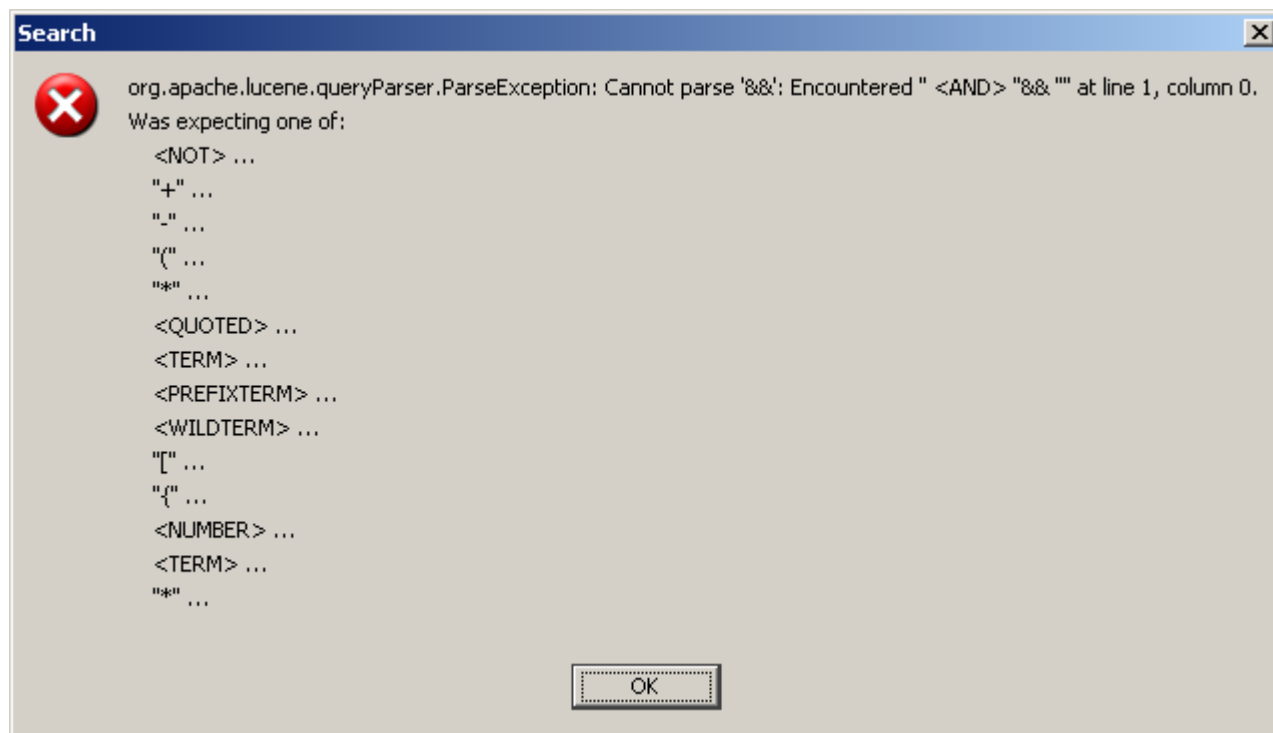


図 5 – Parse Exception メッセージ

バグ 93729 : 名前にアンダースコア (_) が含まれるオブジェクトの場合、名前全体を入力しないと検索で検出されない

Studio または Central でアンダースコアを含むオブジェクト名を検索するには、[Search] ペイン (Studio) または [Search Flow] ペイン (Central) で名前全体を入力する必要があります。

たとえば、**arun_test** という名前のオペレーションと **arun test** という名前の異なるオペレーションを作成した場合、**arun** を検索すると、**arun test** オペレーションしか返りません。アンダースコアを含むオペレーション (**arun_test**) は検出されません。

両方のオペレーションを検索するには、**arun_test** の検索と、**arun test** または単に **arun** の検索を個別に行う必要があります。

注：このことは、"." (ピリオド)、":" (コロン)、"-" (ハイフン)、"(" (左小括弧)、")" (右小括弧)、"{" (左中括弧)、"}" (右中括弧)、"[" (左大括弧)、"]" (右大括弧) などの他の特殊文字を含むオブジェクトにも当てはまります。

バグ 94023 : Delete Custom Attribute オペレーションを使用して作成されたフローは、無効な caName 入力値でも正常に実行する

Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Manager/ フォルダにある **Delete Custom Attribute** オペレーションを使用するフローを実行した場合、**caName** 入力に無効な値を割り当ててもフローは正常に実行します。

このようなことが発生するのは、HP Operations Manager API が **caName** 入力の無効な値をエラーとして考慮せず、結果としていずれの場合も **Delete Custom Attribute** オペレーションを行わないためです。

バグ 94056 : Remote Command の NAS Connect API サポート

Library/Operations/Remote Command Execution/ フォルダにある **Remote Command** オペレーションは、有効な入力では正常に実行しますが、無効な入力でも正常に実行します。NAS Connect API に対するサポートは、次のように **Remote Command** オペレーションに追加されています。

- 使用可能な [Protocols] 選択リストには、**Remote Command** オペレーションの **protocol** 入力で使用するための **NASConnectTelnet** 値が含まれるようになっています。
- **Remote Command** オペレーションには **nasDevice** 入力が含まれるようになっており、これを使用すると **NASConnectTelnet** プロトコルを使用するときにコマンドを実行する NAS デバイスを指定できます。

バグ 94309 : Service Manager 統合の Get Change オペレーションを使用して作成されたフローは、変更チケットの ID に空白の説明があると失敗する

空白の説明がある変更チケットを使用すると、Library/Integrations/Hewlett-Packard/Service Manager/Change Management/ フォルダにある **Get Change** オペレーションは、**id** 入力の値が空白の説明のある変更チケットの場合、Null ポインター例外で失敗します。オペレーションの結果では部分的なチケット情報が正常に取得されますが、それでもオペレーションは失敗します。このバグは HP Service Manager 7.0 および 7.01 に影響します。

バグ 94349 : スケジューリングのアカウント名に特殊文字 ":" (コロン) が含まれると、スケジュールの実行が失敗する

コロン (:) は、HTTP ヘッダーで区切り文字として使用される特殊文字です。たとえば、HTTP ヘッダーではユーザー名とパスワードをコロンで区切る必要があります。そのため、ユーザー名が "test:user" でパスワードが "password" の場合、HTTP ヘッダーはユーザー認証に "test:user:password" を使用して、スケジュールは失敗します。SSO などの他の認証方法でも同様です。

スケジューリングのアカウント名に ":" が含まれる場合、OO 7.51 Scheduler は失敗します。この問題を回避するには、OO のユーザー名でコロンを使用しないでください。

バグ 94429 : 特殊文字 "=" (等号) または ";" (セミコロン) を含むユーザー名で Central にログオンすると例外が発生する

特殊文字 "=" (等号) または ";" (セミコロン) がユーザー名に含まれる場合、Central へのログオンは例外で失敗します。この問題を回避するには、OO のユーザー名で "=" または ";" を使用しないでください。

バグ 94431 : スペースを含むパスワードを使用して OO Central をインストールした場合、Central にログオンできない

パスワードに特殊文字であるスペースが含まれる場合、Central へのログオンはエラーメッセージ Login failed で失敗します。この問題を回避するには、OO のパスワードでスペースを使用しないでください。

バグ 94803 : ドイツ語にローカライズされた演算オペレーションでは、18 桁より大きい数値に対して正確な値が得られない

ドイツ語のローカライズでは、Library/Utility Operations/Math and Comparison/Simple Evaluators/ フォルダーにあるいずれかの演算オペレーションの入力値が 18 桁より大きい整数の場合、計算の精度が損なわれます。また、整数部が 13 桁より大きく、小数部が 3 桁より大きい倍精度数でも、同じ問題が発生します。


バグ 94805 : 演算および比較オペレーションは、数字で始まってテキスト文字で終了する 17 文字より大きい文字列を、文字列として扱うことができない

数字で始まってテキスト文字で終了する 17 文字より大きい文字列を、Library/Utility Operations/Math and Comparison/ フォルダーにあるいずれかの演算および比較オペレーションで使用した場合、正しくない結果になることがあります。

たとえば、"12345678901111111abc" という値を入力する場合、文字列として扱われることを期待しますが、オペレーションは文字列を切り捨てて "12345678901111111" にします。値 "12345678901111111abc" と "12345678901111111cdd" を比較した場合、結果は正しくありません。

バグ 95031 : "Check-In" オペレーションを使用してオブジェクトをチェックインしたとき、[My Changes/Checkouts] ペインが更新されない

Studio で Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/Repository/ フォルダーにある **Check-In** オペレーションを使用してフローを作成した場合、フローおよびフローが存在するフォルダーはチェックアウトされるので [My Changes/Checkouts] ペインに表示されます。

[Debug Flow in Central] ボタン () を使用してフローをデバッグし、実行結果が正常になった場合、フローとフォルダーがチェックインされて、[My Changes/Checkouts] ペインが自動的に更新されなければなりません。しかし実際には、[My Changes/Checkouts] ペインは自動的に更新されず、フローとフォルダーは実際はチェックインされているのにまだ表示されています。

バグ 95448 : Studio でリポジトリを切り替えた後、Repoutil.exe を使用してデフォルトのパブリックリポジトリにパブリッシュまたは更新すると、例外が発生する

Repoutil.exe を使用してローカルリポジトリからデフォルトのパブリックリポジトリにパブリッシュまたは更新すると、Studio がローカルリポジトリに接続されていない場合であっても例外が発生します。

デフォルトのパブリックリポジトリで Studio にログオンし、Repoutil.exe ユーティリティを使用してローカルリポジトリからパブリッシュまたは更新した場合、プロセスは正常に行われて、次のようなメッセージを受け取ります。

```
There were no differences between source and target.
```

その後 Studio でデフォルトのローカルリポジトリに切り替えてから、デフォルトのパブリックリポジトリに戻して Repoutil.exe コマンドを繰り返すと、Exception while performing action というメッセージが表示されます。このメッセージは、別のプロセスがパブリックリポジトリをロックしていることを示します。

この例外は、Repoutil.exe コマンドを初めて実行した後で他のデフォルトではないローカルまたはリモートリポジトリに切り替えた場合でも発生します。

注：デフォルトのパブリックリポジトリに切り替えて戻した後、Studio はデフォルトのローカルリポジトリには接続されなくなります。つまり、Studio はデフォルトのローカルリポジトリをロックしていません。

バグ 96051 : UCMDB オペレーションの Get Filtered Object List by Type は logicalOperator 入力値が無効でも正常に実行する

Library/Integrations/Hewlett-Packard/Universal CMDB/ フォルダーにある **Get Filtered Object List by Type** オペレーションは、**logicalOperator** 入力値が無効（有効な値は AND および OR）であっても、**Success** レスポンスに達します。**logicalOperator** 入力値が無効である場合、値はデフォルトで OR になります。

既知のバグの修正

バグ 85265 : OO 7.50 では、VM が IP、UUID、またはホスト名で識別されている場合に、VMWare Virtual Infrastructure Configuration オペレーションが Datacenter 不明エラーで失敗する

vmDatacenter という新しい入力が、Library/Integrations/VMWare/VMWare Virtual Infrastructure/Configuration/ フォルダーにある次のフローに追加されました。

- Add NIC to VM
- Configure NIC on VM
- Remove NIC from VM

これらのオペレーションでは、IP アドレス、UUID、またはホスト名により VM を識別する場合、**vmDatacenter** 入力値で、その VM を検索するデータセンターを指定する必要があります。

バグ 88485 : nfs.client サービスを指定すると HP-UX State Change フローが失敗する

OO 7.50 では、nfs.client サービスを指定すると、Library/Accelerator Packs/Operating Systems/HP-UX/State Change/ フォルダにある次のフローが失敗しました。

- Start Service
- Start Service with Notification

この問題が発生するのは、nfs.client サービスのプロセス名が nfs4cbd であり、上記フローのサブフロー **Check Processes By Command Line** で nfs.client がコマンド入力の引数として使用されるためです。これにより、**Start Service** フローと **Start Service with Notification** フローが失敗します。この問題は OO 7.51 で修正されています。

バグ 88683 : Telnet プロトコルを使用すると、無効な path 入力で Red Hat Delete File フローが Success に到達する

OO 7.50 では、Telnet プロトコルを使用した場合、Library/Operations/Operating Systems/Linux/Red Hat/Disk and File Operations/ フォルダにある **Delete File** フローが、無効なファイル名を **path** 入力に入力したときに、**Success** レスポンスに到達しました。

ファイル名が無効なので、本来フローは **Failure** レスポンスになるはずですが、ここではそうならず、フローは **Success** レスポンスに到達しますが、内部で失敗して次のようなエラーレポートが表示されました。

```
{returnCode=0;stdErr=;returnResult=rm:cannot lstat `/root/b.txt':No such file or directory;Result=rm:cannot lstat `/root/b.txt':No such file or directory;sessionId=iconclude-5959874682577630572;stdOut=rm:cannot lstat `/root/b.txt':No such file or directory;}'
```

この問題は OO 7.51 で修正されています。

バグ 88768 : Red Hat Kill Process with Retry および Check Process by PID フローが無効な PID (キルプロセス) で Success に到達するが、内部的には失敗する

OO 7.50 では、Library/Accelerator Packs/Operating Systems/Red Hat/Utility/ フォルダにある **Kill Process with Retry** および **Check Process by PID** フローは、PID 入力値が無効なときに **Success** レスポンスに到達しますが、内部的には次のようなエラーメッセージで失敗しました。

```
{returnCode=0;stdErr=;returnResult=-bash:kill:(234567) - No such process;Result=-bash:kill:(234567) - No such process;sessionId=iconclude1624793938258725529;stdOut=-bash:kill:(234567) - No such process;}"
```

OO 7.51 では、**Kill Process with Retry** および **Check Process by PID** フローが修正されて、この問題は解決しています。

バグ 88846 : ローカルプロトコルを使用する場合に制御文字がサポートされない

ローカルプロトコルを使用すると、制御文字 ("&&" や "|") を含むコマンドが失敗することがあります。

次のフォルダーの Unix Accelerator Pack コマンドではユーザーはプロトコルとしてローカルを選択できますが、実際にはローカルでの実行はサポートされません。

- Library/Accelerator Packs/Operating Systems/Red-Hat/
- Library/Accelerator Packs/Operating Systems/Solaris/
- Library/Accelerator Packs/Operating Systems/SUSE Linux/

Library/Operations/Remote Command Execution/ フォルダーにある **Remote Command** オペレーションは、ローカルプロトコルに対して実行するときは制御文字 "&&" または "|" をサポートしません。この問題は OO 7.51 で修正されています。

バグ 89173 : PowerShell のフロー Get Event Log が Success レスポンスに到達するが内部で失敗する

Library/Accelerator Packs/Operating Systems/Windows/PowerShell/Events/ フォルダーにある **Get Event Log** フローは、**Success** レスポンスに到達しますが、空の結果を返します。このフローの出力は次のようになります。

```
{returnCode=0;returnResult=;Result=0;sessionId=fc997b5c-b9f2-4a42-beb5-dd175ec75ba9;}
```

source 入力が固定値のまま有効な値が指定されない場合、フローは空の結果を返します。

この問題は、**source** 入力をユーザープロンプトに変更することで OO 7.51 では解決されています。

バグ 89183 : class 入力または type 入りに Null 値が割り当てられると DIG オペレーションが失敗する

Library/Operations/Network/DNS/ フォルダーにある **DIG** オペレーションは、**class** 入力または **type** 入りに **Prompt User** 入力変数を使用して null 値が割り当てられると失敗します。この問題は OO 7.51 で修正されています。

バグ 89658 : ORACLE RAC が設定されていると Linux インストーラーが失敗する

OO Linux インストーラーは、OO が Oracle RAC (Real Application Clusters) を使用するよう設定されていると失敗します。OO 7.51 では、test_db_connection スクリプト (configure.sh ファイル) を変更することで、この問題は解決されています。

バグ 90526 : SSH オペレーションから戻されるマルチバイトデータが壊れている

Library/Operations/Remote Command Execution/SSH/ フォルダーにある SSH オペレーション、およびロックされていないフォルダーを右クリックしてから [New]、[Operations]、[Secure Shell] の順に選択して作成する新しい Secure Shell オペレーションは、壊れた文字を返します。この問題は OO 7.51 で修正されています。

バグ 92844 : VMware Server オペレーションで作成されたフローが無効になる

フローが **environmentParameters** 入力を含む VMware オペレーションを使用する場合（これらのオペレーションは Library/Integrations/VMware/VMware Server/ フォルダーにあります）、フローの結果は検証エラーになり、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Constant input value failed validation. You have not assigned specific value to environmentParameters.
```

Library/Integrations/VMware/VMware Server/ フォルダーの次のオペレーションには、**environmentParameters** 入力が含まれます。

- Get Virtual Machine Display Name
- Get Virtual Machine IP Address
- Get Virtual Machine Memory
- Get Virtual Machine Operating System Name
- Get Virtual Machine State
- Host Enumerate Virtual Machines
- Host Register Virtual Machine
- Host Unregister Virtual Machine
- Reset Virtual Machine
- Start Virtual Machine
- Stop Virtual Machine
- Suspend Virtual Machine
- VMware Command

検証エラーを防ぐには

1. 前記のいずれかのオペレーションを開き、[Inputs] タブをクリックします。
2. **environmentParameters** 行の最後にある矢印ボタンをクリックして、入力エディターを開きます。
3. [Input Data Flow] セクションの [Assign from Variable] ボックス（デフォルトは [<not assigned>]）で下向き矢印をクリックして、[environmentParameters] を選択します。

バグ 92845 : 非推奨になった VMware Server オペレーションで作成されたフローが検証エラーになる

フローが **environmentParameters** 入力を含む非推奨になった VMware オペレーションを使用する場合（これらのオペレーションは Library/Integrations/VMware/VMware Server/Deprecated/ フォルダーにあります）、フローの結果は検証エラーになり、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Constant input value failed validation. You have not assigned specific value to environmentParameters.
```

Library/Integrations/VMware/VMware Server/Deprecated/ フォルダーの次のオペレーションには、**environmentParameters** 入力が含まれます。

- Get Virtual Machine Display Name
- Get Virtual Machine IP Address
- Get Virtual Machine Memory
- Get Virtual Machine Operating System Name

- Get Virtual Machine State
- Host Enumerate Virtual Machines
- Host Register Virtual Machine
- Host Unregister Virtual Machine
- Reset Virtual Machine
- Start Virtual Machine
- Stop Virtual Machine
- Suspend Virtual Machine
- VmwareCmd

検証エラーを防ぐには

1. 前記のいずれかのオペレーションを開き、[Inputs] タブをクリックします。
2. **environmentParameters** 行の最後にある矢印ボタンをクリックして、入力エディターを開きます。
3. [Input Data Flow] セクションの [Assign from Variable] ボックス（デフォルトは [<not assigned>]）で下向き矢印をクリックして、[environmentParameters] を選択します。

バグ 92846 : How Do I フローが Linux ベースの Central で動作するようになった

OO 7.50 では、Linux マシンにインストールされた Central で How Do I フローが動作しませんでした。このフローは、オペレーティングシステム固有ではないオペレーションを使用するように変更されました。

バグ 94758 : フローが .NET RAS オペレーションで開始した後 Java RAS オペレーションを使用した場合、RAS セッションが削除されることがある

フローが RAS セッションを使用し、フロー内の最初のオペレーションが .NET RAS オペレーションである場合、セッションが削除されることがあります。フロー内で後になって Java RAS オペレーションが使用される場合も、フローが失敗する可能性があります。

7.51 では、Java セッション管理コードが C# セッション管理コードと一致するようになったため、この問題は解決されました。

OO Patch 7.50.01 での修正と拡張

2009 年 4 月にリリースされた OO Patch 7.50.01 では、次の問題が修正されました。

- 特定の複数作成者オペレーションの後、ユーザーのワークスペースで不整合およびデータの損失が発生します。（欠陥 89998、89384、88973、87966、88588、88780、89142、89869）
- フローをチェックアウトして変更した場合、実行中に Central がクラッシュすると、フローを再開できません。（欠陥 89264）
- クラスタの 1 つのノードがダウンしたとき、Studio が適切な通知を受信せず、クラスタの別のノードが保留中のトランザクションを復元できません。（欠陥 9839）
- 並列ステップを含むフローの複数ページレポートに、足りないページがあります。（欠陥 89032）
- **Line Count** フィルターで生成される結果が、以前のバージョンの OO と異なります。（欠陥 89324）
- PROMOTER および他の非作成グループに割り当てられたユーザーが、オブジェクトを作成および変更できます。（欠陥 89377）

- Linux の repoutil.sh が引数のスペースに対応しません。(欠陥 89762)
- **Generate Run URL** オペレーションを含むフローを Studio Remote デバッガーから実行すると、フローは "runService is not defined" というエラーメッセージの例外をスローします。(欠陥 90290)
- JRAS SSH オペレーションから返されるマルチバイトデータが壊れています。(欠陥 90526)
- Central の **repoutil.exe** ユーティリティがフローのエクスポートに失敗します。(欠陥 90777)
- 並列の子を含むヘッドレスフローの Web UI からの再開が失敗します。(欠陥 91026)

このパッチには次の拡張も含まれます。

- SSH オペレーションでの Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化のサポートが追加されました。(欠陥 90221)
- リポジトリトランザクションに関するメモリの使用が改善されました。(欠陥 88988、88737、89505)
- Web サービス検索 API が、**WSFlow** 構造の名前フィールドを返しません。(欠陥 89919)
- Oracle 10g R2 Enterprise Edition に加えて Oracle 10g R2 Standard Edition のサポートが追加されました。

OO Version 7.50.02 での修正

2009 年 6 月にリリースされた OO Version 7.50.02 では、次の問題が修正されました。

バグ 91114 : SSH オペレーションから戻されるマルチバイトデータが壊れている

OO 7.50 では、SSH および NRAS SSH オペレーションでマルチバイト文字が正しく表示されませんでした。この問題は OO 7.50.02 で修正されています。

バグ 91789 : OO 7.50 の Web Service Wizard (wswizard.exe) は、オペレーションを生成するときに SOAPAction ヘッダーを 2 回送信する

OO 7.50 では、wswizard.exe によって生成されたオペレーション、および header_<headerName> などのカスタム SOAP ヘッダーを使用して送信された Library/Operations/HTTP Client/ フォルダー内のオペレーションは、SOAPAction ヘッダーを 2 回送信していました。この問題は OO 7.50.02 で修正されています。